1.　評価結果概要表

評価確定日　平成21年　7月　26日

【評価実施概要】

事業所番号	2276700172
法人名	有限会社　旬彩亭
事業所名	グループホーム　旬彩
所在地 （電話番号）	静岡県磐田市今之浦1丁目1番地13 （　0538-33-5105　）

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年5月25日

【情報提供票より】（平成21年4月28日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成14年9月1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	20 人	常勤 8 人/ 非常勤12 人/ 常勤換算11 人

（2）建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート　造り	
	3階建ての1階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	43,000　円		その他の経費（月額）	光熱費他　11,000円
敷　　金				
保証金の有無 （入居一時金含む）	有　217,500円		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食		昼食	
	夕食		おやつ	
	または1日当たり 1600　円			

（4）利用者の概要（平成21年4月28日現在）

利用者人数		9　名	男性	3　名	女性　6　名
要介護1		1　名	要介護2		2　名
要介護3		3　名	要介護4		2　名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	83.8　歳	最低	62　歳	最高　94　歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	さくらクリニック　　大竹歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム旬彩は、JR磐田駅東方約2kmの住宅地の一角に建つバリアフリーの賃貸マンションの1階部分（1DK・9室）を使用して事業を行っている。通常のワンルームマンション同様の入居者の個室は、余裕のある広さとプライバシーが確保され、くつろげる空間となっている。

また、入居者に季節を感じてもらうために、毎日のように隣接する公園を利用したり、近所を散歩しており、食事には“旬のもの”を提供するように心掛けている。さらに、ケアホーム旬彩利用者、上階の住人、地域の人々との関わりを深めるよう努めており、人と人とのふれあいの機会を大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回評価では、「介護計画の見直し期間」、「災害に関する近隣との協力体制」、「水分摂取の記録」について改善課題として上がっている。介護計画については、3か月に一度は見直しを行うよう努力しており、災害対策についても上階の住人にも訓練に参加してもらうなどの取組を始めている。水分摂取記録については、「正確には分からない」とし、記録していない。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 運営者、管理者、職員は、自己評価および外部評価の意義を理解しており、運営推進会議などでも報告し、改善に取り組んでいる。管理者、スタッフともに、介護福祉、利用者へのケアに関して熱意をもって取り組んでいる様子が伺え、今回の自己評価および外部評価による改善が期待できる。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議は、2ヶ月に1回必ず行われ、夜間にもかかわらず、市職員や包括支援センター職員も含め、多くの地域関係者および当事者の参加を得ている。内容に関してもホームからの報告や地域にお願いしたいこと（防災関係等）だけでなく、進行の配慮により、参加者から様々な意見を引き出すようよう心掛けている。また、運営推進委員会の内容が実践に活かされており、運営推進委員会の目的が適切に果たされている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 金銭管理の状況、健康チェック表、通院記録、旬彩便り、個人写真を毎月家族に発送している。旬彩だよりは、月の行事予定やホームの状況などを分かりやすく伝える内容であり、これらの発送の際に、あえて手書きで一言添えることにより、家族の信頼を得、不安を軽減するよう努めている。　また、苦情解決制度に関する掲示と説明、日々の関わりにおいて“何でも言える雰囲気”を大切にしており、意見や要望にも真摯に対応している。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 地域自治会に加入し、毎年納涼祭等の招きを受けるなど、積極的に参加している。また、日常的にマンション上階の住人や散歩の際などに出合う地域の方との交流が図られ、毎月老人会の集まりに参加するなど、日頃から地域とのつながりを大切にしている。また、管理者が認知症サポーター養成研修等、認知症に関わる地域住民の研修講師を積極的に受託していることも地域との関係をより深いものにしている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所パンフレットの表紙に“少人数による家庭的で落ち着いた雰囲気”、“地域とのふれあいのい中でその人らしく喜びある暮らしをサポートする”ということを明言しており、地域密着型サービスとしての位置づけを明確にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は地域との関係を大切にし、また、規定外の様々な利用者のニーズに応える努力や工夫を怠らず、公益的な価値観を大切にしている。また、職員に対しても様々な場面において常に理念を念頭においた指導を行っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、毎年納涼祭等の招きを受け積極的に参加している。また、散歩の際などに地域の方とおしゃべりしたり、毎月老人会の集まりに参加するなど、日頃から地域とのつながりを大切にしている。管理者が認知症サポーター養成研修等、認知症に関わる地域住民の研修講師を積極的に受託している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果に関して、職員だけでなく、運営推進会議なども利用し、多くの関係者と共有しており、改善に取り組む姿勢を明確にしている。自己評価にあたっては、職員一人ひとりに意見を求め、評価の意義を職員に浸透させ、評価結果をもとに運営改善策を検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度必ず開催され、時間帯が夜(19:00-21:00)であるにもかかわらず、毎回市職員や包括支援センター職員の参加を得ている。 管理者の進行による会議で、参加者全員による活発な意見交換が行われ、内容がホームの運営に活かされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	夜間にもかかわらず毎回の運営推進会議に市の職員の参加を得ており、様々な疑問や課題が生じた際には、気軽に連絡・相談がなされている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理の状況、健康チェック表、通院記録、旬彩便り、個人写真を毎月家族に発送している。旬彩だよりは、ホームの状況、利用者の状況を分かりやすく伝えており、様々な点に配慮された素晴らしい内容である。さらに通知の際に、あえて手書きで一言添えることにより、家族の信頼を得るよう工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所の際、本人、家族に対し、苦情解決制度について丁寧に説明し、日々の関わりにおいても“何でも言える雰囲気”を大切にしている。敬老会等に合わせて行われる「家族会」や運営推進会議における家族の意見、要望等に関しても真摯に対応している。また、「抑制しないケア」と「転倒のリスク」などに関する家族への説明責任も果たされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホーム職員と小規模多機能職員ができる限りの範囲で兼務することにより、万が一職員が退職する場合も利用者へのダメージが抑えられるように配慮している。また、退職する職員には、利用者の状況にもよるが、不安やダメージを与えないことを重視してあえて「利用者へのお別れは言わない」という方針をとっている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員が「参加したい」という研修には出来る限り参加してもらえるように配慮している。また、研修に参加した職員は、研修の内容等について必ず発表し、報告書も管理者に提出している。また、ホームで実施している勉強会等において、個々の利用者への声かけの方法（個別の対応の方法）について学ぶ機会を設けている。	○	職員の就業意欲向上、知識・技術習得意欲向上を図る上で、提出された研修報告書に対する管理者からのコメントなど、フィードバックに関する取り組みを行うことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会に必ず参加し、市内のグループホームとの相互交流に努めている。また、管理者同士では日常的に様々な情報交換を行い運営に活かしている。また、近隣のグループホームのお祭りに参加するなどの交流も行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅で暮らしていた際の生活パターンや生活環境（自宅で使用していた家具や調度品を居室に持ち込んでもらうなど）にできるだけ近い状況をつくることに心掛け、また、何か役割を担ってもらうことにより、ホームができるだけ早く“自分の居場所”になるよう努力している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の人間関係の持ち方や、昔ながらの様々な知恵に学ぶところが多いと感じ、素直に尊敬の念を抱いている。また、「援助する側、される側」という関係ではないという意識を持つことに努め、食事の下膳など、できることは利用者自身にしてもらうなどの自己効力感を大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の時間帯など、生活パターンに関してできるだけ本人の希望に沿うように努め、また、意向を表現できない場合にも、できるだけ自宅で暮らしていた頃と同じパターンになるよう配慮している。食事に関しても嗜好調査は行っていないが、日々の会話の中から嗜好を把握している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	関係者が一堂に会しての会議は、頻繁に行うことはできないが、計画書作成に際し、本人、家族の意見を聞き取るとともに、日々の利用者の様子を最も詳細に把握している介護職員の情報を事前に素案として収集し、サービス計画作成担当者が最終的な計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	従来は、6ヶ月毎、もしくは、利用者の変化が見られた際に介護計画を見直ししていたが、自己評価および外部評価による指摘もあり、現在では3ヶ月毎、もしくは変化が見られた際に随時見直しを行うよう努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居室は全て通常のワンルームマンションの形態であり、家族が気軽に宿泊でき、居室内での炊事も可能である。外泊支援やマンション内の安全確保、配食サービス等多方面の柔軟な支援に取り組んでいる。また気分転換のため外食（回転すし）や花見などの行事も積極的に実施している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望で、入居後も従来からのかかりつけ医に受診している利用者もいる。また、ホームの協力医は、定期的な往診以外にも、夜間や休日、急な状況にも対応してくれている。受診内容はその都度家族に報告し、情報の共有がされている。報告した内容と日時は、記録に残している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化および看取りに関する家族の意向を把握し、同意書に記入してもらっている。また、勉強会にて看取りの指針やエンゼルケアについて学んでいる。最近、病院で他界された利用者が一度ホームに戻り、見送った事例があった。その際の管理者による職員指導の様子からもホームの方針（心構え等）が共有されている状況が伺えた。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮したケアには特に気を遣い、失禁があった場合の対応や、利用者に聞こえるような状況で申し送りしなくてはならない状況においては本人の名前を使用しないことなどが徹底されている。記録類は、所定の場所で保管し、個人情報保護に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての一日の流れはあるが利用者の希望が優先されている。喫煙や飲酒も職員の見守りの範囲にて楽しまれている。様々な場面において、決して利用者を急がせる事無く集団生活の中においても個が大切にされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は担当者が一週間毎に季節の物、ホームの畑で取れた物などを利用して作っている。小規模多機能（ケアセンター旬彩）利用者と共に楽しい雰囲気の中で食事ができ、食後の片付け、食器拭きなどの役割も生き生きと担っている。年末には餅つきが行われ、正月には雑煮を提供している。	○	食事は最大の楽しみであると多くの利用者の声が聞かれる。現在、日常的な会話の中で嗜好を把握されているとのことであったが、更に工夫を凝らした取り組みを行うことが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のさまざまな希望（時間帯や見守り方法など）にあわせた入浴支援がされている。バイタルチェックの結果がかんばしくない場合、その日の入浴は本人納得の上中止している。通常のワンルームマンション同様、風呂場が自室にあるため入浴を拒む利用者がみられなかった。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとり「その日」したいことが自由にでき、画一化されることなく自分自身の時間を過ごすことができている。散歩、野菜作り、花作りなど、個々の興味・趣向に寄り添った支援や、役割を持つことにより張り合いのある日々を過ごすことのできる支援が行われており、利用者の前向きな語りがそれを表していた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム隣接の公園を日常的に活用している。公園に行けば、季節の移り変わりを肌で感じることができるだけでなく、子どもや外国人、時にはギターや三味線を弾いている方など多彩な顔ぶれに出会うことができ、交流を楽しむことができる。利用者は、その他にも、様々な“自分が行きたい場所”に職員が見守り同行することにより行くことができている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	生活時間帯内に施錠は一切されていないため、入居者は自由に外出できる。職員は、常に利用者がホーム外に出て行く気配を見落とさないように目配り、気配りを怠らず、見守りの中で一人で買い物に行くことができている利用者もいる。「抑制しないケア」と「リスク」の関係については、家族に詳細に説明し、同意を得た上で実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練が行なわれている。上階の住人とも日頃から交流をもち、防災訓練にも2～3名の参加を得ており、夜間帯の災害への対応についても話し合いがなされている。また、地域の人々にも自治会を通じ協力を依頼している。 運営管理者および職員1名が上階に住んでいることは、緊急時の対応には、心強い条件といえる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、散歩の後、おやつ、入浴後に水分摂取されている。治療等を受けている利用者には水分・カリュウム等チェックしながら管理している。また利用者の摂取形態に応じきざみ・粥などで対応している。年に2回カロリー計算をして過不足のない献立の確認をしている。	○	カロリーの過不足や栄養の偏り、水分の不足が起こらないよう、職員全体が知識や意識を持ち、利用者に対して支援することが望まれる。また、水分に関する記録は完全でなくとも確認可能な利用者や、把握可能な分だけでも記録することが望まれる。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小規模多機能（ケアホーム旬彩）利用者と同じ食堂において食事を摂ってもらっていることに関して、利点だけでなく課題もあることを職員が認識しており、人間関係等に関して様々な配慮をしている。また、個室の玄関先（マンション1Fの廊下）には、日なたぼっこや夕涼みのできるベンチが配置され人気の場所となっており、共用空間の随所に過ごしやすさに配慮した工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリー対応型の一般賃貸マンションと同一の部屋のため各戸南面で風の通り、陽の光の入りが良く、非常に居心地の良い居室である。また、プライバシーが確保され安心して過ごすことができる。家族が宿泊されても問題なく、「自分の家」そのものである。		